



みんなで探して 発見！ 身近な自然



いつもいきもの情報をありがとうございます。いただいた情報は、貴重な記録として集約いたしております。紙面の都合上全部をご紹介できないことをお許しください。みなさんが発見したいいきものや自然情報をご紹介します！みなさんはどんな発見をしましたか？ふりかえてみましょう！

今回はどんな発見があったかな？



区民による身近な生物調査ロゴマーク

いきもの住民会議 2019 報告

2019年のテーマは『ムシ探して生物多様性リーダーを目指そう！』でした。昨年7月13日（土）に中目黒公園にて、昆虫探しのコツと捕獲した昆虫を同定*できる写真撮影の方法を知ることを実施しました。



調査の意義と当日の流れを説明した後、写真内のいきものを見つけるクイズを出し、虫を見つける観察力を上げる工夫をしました。



屋外へ出て実際に捕獲を試みました。高い所にいる虫を捕獲する方法と、枝を軽く叩いて網の上に落とす方法（右上）を学んでいただきました。

分類	種数	数
バッタ類	6	56
コウチュウ類	9	43
カメムシ類	9	12
トンボ類	2	2

今回の調査結果です。バッタ類が多く、次いでコウチュウ類も多く捕獲できました。数は少ないながらもカメムシ類も9種見つけることができました。



写真（中・右）のように同定*の決め手になりやすい角度から複数枚撮影すると同定しやすいです。ともにカナブンです。



ヤブキリ



キマダラカメムシ



スグリゾウムシ

中目黒公園は草地が多いことからバッタ類が多く捕獲できたと推測できます。樹木につくコウチュウ類も積極的に捕獲しました。見つけた場所で撮影するとその種の生態がわかります。捕獲して白いもの（お皿や紙）の上で撮影すると細かい形まではっきりと映るので、同定*のしやすさにつながります。*同定：種名を調べ特定すること



市街地の公園などでも見られます。胸の黒い帯はメスよりオスが太いですが、個体によって太さが違います。



河川や海岸、湖沼や水田など全国の水辺で1年中見られます。都市部でもヒナを連れて移動する姿が見られます。

カルガモ (カモ科)

7月7日か8日にカルガモのヒナが9羽かえりました。元気にお母さんと泳いでいます。(中目黒4丁目自然通信員)

シジュウカラ (シジュウカラ科)

5月17日 アンズの木の新築箱から巣立ったばかりでキョトンとしています。(大橋2丁目自然通信員)

2019 みんなの発見

昨年は12月31日までに2617件の情報が寄せられました。もっとも多かったのは鳥類で、57種1393件でした。

幼虫はフジやクズの花を食べます。成虫は常緑樹の葉の裏で越冬します。



1980年代から野外でみられるようになりました。ペット由来で、特定外来生物に指定されています。

ガビチョウ (チメドリ科)

8月14日 庭地にて幼鳥を含む3羽以上見られた。(碑文谷5丁目通信員)



ウラギンシジミ (シジミチョウ科)

10月1日 裏の銀色がまばゆく、鳥かと思うほど強い羽音でした。(大岡山2丁目通信員)



オオヒラタシデムシ (シデムシ科)

8月7日 駒場公園でつかまえようとするとうんどう地面にもぐっていきました!(駒場1丁目自然通信員)

地表で暮らし、ミズなどのいきものの死がい集まります。



ハクビシン (ジャコウネコ科)

9月5日 ブドウ棚に仕掛けたトレイルカメラに写りました。(南3丁目通信員)

本来の生息地は中国や台湾で江戸時代に日本に持ち込まれたと考えられています。夜行性で雑食性です。在来のタヌキとエサ資源の競合が起こっているようです。

秋の彼岸の頃田んぼのあぜや土手に群生します。根本付近の球状の塊には有毒な物質が含まれるので注意が必要です。



ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

9月22日 朝8時ごろ赤い彼岸花が一輪だけ咲いていました。(八雲3丁目自然通信員)

幼虫は広葉樹の生木を食べ成虫は樹皮を食べます。メスは根に近い樹皮に産卵します。



ゴマダラカミキリ (カミキリムシ科)

6月26日 公園の看板にとまっているのを見つけました。(柿の木坂3丁目自然通信員)

いきもの情報集計結果

2019年は「甲虫」をテーマに身の回りのいきもの情報を募集しました。結果の概要をお伝えします。

クワガタムシ科

6件ともクワガタの報告でした。



クワガタ (メス)

幼虫は倒木、成虫はクヌギ、コナラなど広葉樹の樹液に集まります。

甲虫をみつけたよ！

科	種数	報告件数
クワガタムシ科	1	6
コガネムシ科	12	75
ゾウムシ科	5	5
カミキリムシ科	13	21
テントウムシ科	12	31
合計	43	138

2019年1月から12月末まで

報告件数を比べると元々種数の多いコガネムシ科の情報が多かったです。昼行性の種の多さ・見つけやすさが影響していると思われるかもしれません。

テントウムシ科

コガネムシ科に次いで報告数、種数共に多く寄せられました。



ハラグロオオテントウ
クワキジラミを食べる肉食性です。

ナナホシテントウ

アブラムシを食べる肉食性です。



コガネムシ科

1種に対して複数件報告がありました。



リュウキュウツヤハナムグリ(左)とカナブン
リュウキュウツヤハナムグリは都区内では2014年頃から見られるようになりました。カナブン同様樹液に集まります。

ゾウムシ科

報告件数は少ないながらも5件すべてが別種でした。



ヒレルクチブトゾウムシ

成虫はサクラやウメなどバラ科広葉樹の葉を食べ、幼虫は根を食べます。

カミキリムシ科

報告件数に対する種数が最も多かったです。



キボシカミキリ

成虫はクワ科の葉を食べ、幼虫は樹皮下の生木を食べます。

歩もう 野の鳥の歌が聞こえるまち 計画紹介その12

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため平成26年3月から推進している『ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画 (目黒区生物多様性地域戦略)』のポイントを紹介します。

「めぐろの森」の取り組み

区内で特に優れた自然環境を有する公園や大学など持続性の高い緑地を含んでいるエリア(森)を8つ設定しており、地域や関係機関等が連携・協働することで自然環境の保全・創出に取り組めます。そのうちの1か所を紹介します。

駒場野の森

駒場公園、駒場野公園、
東京大学駒場キャンパス一帯

- ・駒場公園のカシ類などの常緑樹、駒場野公園のクヌギを主体とした雑木林の環境を維持していきます。
- ・雑木林では、きのこの栽培、炭焼きなど、駒場野公園自然観察舎を活動拠点とした地域の参加を継続し、他の地域のモデルとして里山・里地の自然の恵みを楽しみながら、継続性の高い保全活動を行います。
- ・駒場野公園の大池、東京大学駒場キャンパス構内の一二郎池と湧水の流れ、同構内駒場小学校脇の湧水と流れ等の水辺の保全を図ります。駒場野公園の水田(ケルネル田んぼ)は、農薬を使わない耕作を継続し、水田とともに暮らしいきものの保全を図ります。
- ・駒場野公園の大池では水辺のいきものの生息環境保全のために「かいぼり」を実施しています。

「かいぼり」ってなあに？

田んぼに入れる水を溜めておく池を維持管理するため、水と一緒に泥を掻き出したりすることです。いきものを採るのはかいぼり作業の一部で地域住民の方の楽しみでもありました。

近年かいぼりによる水質改善や外来種防除の効果が知られるようになったことから、都市公園の池などでも地域の生物多様性の保全を目的としたかいぼりが行われるようになりました。

2019年秋に駒場野公園の大池でかいぼりを実施しました。2020年度にも実施予定です。

かいぼりイベント



池の中でのいきもの捕獲



かいぼりの紹介展示

◆ウグイスの初音情報募集！

春の訪れを感じさせるウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声を聞いたらご一報ください。昨年は、2月8日が最初の記録でした。その他、サクラの開花、ツバメ・蝶類の初見日、ヒキガエルの産卵などの観察情報を募集しています！

みどり土木政策課みどりの係までメール・FAX・電話でお知らせください。

●お知らせいただく項目

観察者(氏名・住所)、いつ、どこで、なにを見た、様子・メッセージ



2020年2月25日発行

目黒区みどり土木政策課みどりの係
〒153-8573 目黒区上目黒 2-19-15

TEL: 03-5722-9355

FAX: 03-3792-2112

メール: sizen@city.meguro.tokyo.jp

【作成】(株)自然教育研究センター